

## 平成30年度 県学校教育の重点

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 授業改善 WEB配信集計システム・教育支援システムの活用
- いじめをしない、許さない、命を大切にする意識の醸成
- 道徳教育・特別活動・人権教育、同和教育の重視
- 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援



## 本年度の重点目標

### 努力事項と具体的な取組（□努力事項 ○取組）

#### □自分の思いや考えを、しっかり伝える力の育成

- 他者と考えを交流できる場を設定する。（グループ学習やペア学習）
- 課題と関連した学びの振り返りを重視する。（板書やノートの工夫）

#### □基礎・基本の定着

- WEB配信問題を活用した基礎学力の定着と補充学習に取り組む。
- 陰山メソッドを実施する。（まず計算・漢字・音読の反復学習）
- 家庭学習強調週間を実施する。

#### □早川に愛着と誇りをもつ子の育成

- 地域の「人・もの・こと」とかかわりながら学習を進める。
- 人財を積極的に活用した年間指導計画を作成し、改善しながら実践する。

### 目標とする成果（評価項目）

- 学習で、「自分の考えを表現したり、友達の話を聴いたりすることができた」とする児童を85%以上。【学期末評価・自己評価】
- 国語・算数のワークテストで、目標値を上回る児童を80%以上【学期末評価】
- 1日「学年×10分以上読書や家庭学習をした」とする児童を80%以上。【学期末・アンケート】
- 「地域の人やものとかかわりながら学習できた」とする児童を80%以上。【学期末・アンケート】

### 保護者・地域との連携

- ◎懇談会、便りで学習状況を伝え、家庭と連携して学習の習慣化を図る。
- ◎家庭での読書を推奨し、読書に親しむ習慣化を図る。

### 特色ある教育活動

- 自然を守り、育てる「つつじが丘緑の少年団」活動、愛鳥活動
- 自然に対する感性や言語感覚を磨く「句会」、ボランティアによる読み聞かせ等、豊かな心を育む「読書活動」
- 地域を愛しふるさと意識を育むジオ学習、地産地消給食、福祉施設訪問等の交流活動
- 全校遠足や全校遊び等心をつなぐ縦割り班活動

平成30年度 下早川小学校 グランドデザイン

## 教育目標 一歩前へ



知：進んで学び 高め合う子

徳：自分をみつめ よりよく生きようとする子

体：体力づくりに 進んで挑戦する子

#### □自分も友達も大切にし、思いやりのある言動ができる豊かな心の育成

- 道徳の授業を中核として、自己をみつめ、生き方についての考えを深めようとする意欲を高める。
- 主に特別活動を通して、児童一人一人の自己有用感を育てる。
- 「生活目標」と関連させた思いやりの心育成のための重点指導を各学期に1回以上行う。

#### □学校・地域・家庭で、進んで相手に聞こえる声であいさつをする態度と気持ちの育成

- 毎学期はじめに、あいさつ指導を児童の発達段階に合わせて実施する。
- ・児童会組織を活用し、工夫しながら「オアシス運動」を展開する。

○「道徳の授業で、話し合いを通して考えを深めることができた」とする児童が80%以上 【学期末・アンケート】

○「友達への言葉遣いに気を付けている」とする児童が90%以上 【学期末・アンケート】

○「困っている人に手助けや声かけをする」とする児童が80%以上 【学期末・アンケート】

○「友人との関係」の肯定的回答が90%以上【Q-Uテスト】

○「進んで相手に聞こえる声であいさつができる」とする児童が90%以上 【学期末・アンケート、実態調査】

○「あいさつがよくできている」の保護者評価が80%以上 【学期末・アンケート】

◎人権学習・同和学習や道徳を積極的に公開し、授業への参加や懇談会を通し、連携して心の教育を推進する。

◎地域ぐるみであいさつ運動を推進する。



## こども一貫教育の取組指針

- 心・健康・学力のバランスがとれた子どもの育成
- 一人一人の個性を活かしてその能力を伸ばす、子どもの夢の育成
- ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもの育成
- 家庭 地域 園 学校が力を合わせた糸魚川の子どもの育成

941-0014 糸魚川市日光寺322

<http://www.tukimizu.itoigawa.ed.jp>



#### □めあてをしっかりとち、体づくりに励む態度の育成

- 体を動かすことが好きになる体育授業や遊びを工夫する。
- ・体力、技能向上のための用具や環境を計画的に整備する。

#### □早寝・早起き等の望ましい生活習慣の育成

- 年3回の強調週間（6月；歯と口の健康旬間 9、10月：生活リズム改善事業 1月：かせ予防週間）を設け、関心や意欲を高める。

- ・メディアコントロールを含めた生活習慣に関する保健指導の成果と課題を保護者へ発信し、啓発活動を効果的に行う。（中学校区家庭学習強調週間と連携）

#### □自然災害の特徴を知り、自分の身を守るための知識と行動力の育成

- 年間指導計画に基づいた各自然災害の学習を発達段階に応じて確実に挙る。

○「体育の授業や休み時間に体を動かすことが好き」とする児童を80%以上【学期末・アンケート】

○「生活習慣をよりよいものにしようと意識している」とする児童を80%以上【学期末・児童アンケート】

○「基本的な生活習慣が身に付いている」とする児童・保護者評価が80%以上【学期末・アンケート】

○「自然災害が発生したときにどう行動するべきか分かる」児童を100%【学習後・ワークシート等】

◎学校保健委員会、中学校区等保護者や家庭・地域、中学校区小中学校などと課題や解決策、成果を共有する。

◎「健康積立カード」「健康生活チェックカード」等を用いて、家庭と学校が連携し、健康づくりとそのための取組を進めていく。